

挨拶

早稲田大学商学学術院 学術院長 藤 田 誠

こんにちは。ただいまご紹介いただきました藤田と申します。

産研フォーラムということですので、本来でありましたら、高瀬所長よりご挨拶申し上げるべきところですが、商学学術院長として一言ご挨拶申し上げます。

産研フォーラムは第42回となりますが、実は産業経営研究所は、1974年に設立され、産学連携あるいは産学官連携のための機関として商学学術院の中に位置付けられています。現在、商学学術院の中には、商学部、商学研究科、会計研究科、そして経営管理研究科があり、その研究部門の受け皿として、この研究所があります。企業でいえば、学部・研究科が各事業部にあたり、商学学術院というのが事業本部というような位置付けになっているということで、商学学術院が一丸となってこの産研フォーラムを盛り上げていこうというような趣旨で、今回は私が最初にごく簡単にですが、ご挨拶申し上げるということでございます。

この産業経営研究所は、産研フォーラム以外にも、アカデミックフォーラム、産業経営などの各種の出版物、そして受託研究といった様々な事業を行っておりますが、その中でも、この産研フォーラムというのは、非常に大きな事業の柱になっております。

従来、公開講演会という名称で行ってございましたが、フォーラムと名称を変えましたので、パネルディスカッションの時間も取っております。ご参加の皆様方からも質問なりご意見等を受け付けて、まさにフォーラムという形で、一方向的に講演を聴いておしまいということではなく非常にインタラクティブな場にできればいいのではと考えております。

そして、今回のテーマにつきましては、主催は産業経営研究所になっておりますが、文部科学省のグローバルアントレプレナー育成促進事業が共催となっており、ここの部分で産学官のところの官の意向ということも反映しているテーマとなっております。ですから、単に大学がということ、教育だけということ、あるいはビジネス、事業ということだけではなくて、教育と産業界との連携について、今回、この場でパネリストの方々からいろいろご意見、経験等を披露していただきますとともに、皆様方からもいろいろご意見を賜りたいと考えております。

以上、少々雑駁な話になりましたが、先ほども申し上げましたように、フォーラムということで、登壇者の方が一方的に話しておしまいということではなくて、ぜひともインタラクティブに最後まで討議に参加していただきまして、本日お集まりになった皆さんにとって非常に有意義な時間にしていただきたいと思います。

以上、私のご挨拶とさせていただきます。本日は、お集まりいただきまして、どうも

ありがとうございます。